



尾花沢市長
菅根光雄

平成30年8月に市長就任。人にやさしくあったかい元気な尾花沢をめざしてまちづくりに取り組んでいる。趣味はそば打ち。



尾山形新聞社
尾花沢支社長
玉虫秀明

平成31年3月より尾花沢支社長に着任。尾花沢を発信するため今日も奔走している。



新春特別対談 賑わう徳良湖を築くドツキ市

(落合) 落合優哉です、ファームオチとして無農薬栽培に取り組んでおり、特産であるスイカを主体に、野菜、豆、芋、葉物などを栽培しています。未来に継続できるような農園にしたいと思って、日々作業しています。**(鈴木)** キャンドルを手づくりしているアトミックの鈴木裕子です。生まれは南陽ですが、東京で洋服の仕事をして、10年前に戻ってきました。そこから独学でキャンドルづくりを始め、今に至っています。**(大知里)** 硝子工房チリ・キルンの大知里祥子です。東北で唯一のガラスを学べる秋田の短大を卒業後、北海道や、グラススタジオ旭さんで仕事をしました。その後、母校の研究生として再びガラスを学び、山形に戻ってガラスづくりをしています。**(市長)** 市長の菅根光雄です。尾花沢は雪が多いですが、こんないいところははないと思っています。本日はよろしくお願ひします。

令和元年10月5日に徳良湖畔で開催された「ドツキ市」。地域に賑わいが根付くよう、徳良湖を築く際に行われた土搦きにちなんで名づけられたこのイベントには、多くの方が訪れた。ドツキ市を主催するのは、尾花沢にUターンした若者たち。彼らはどのような思いでこのイベントを企画したのか。また、徳良湖はまもなく築堤100年を迎えるが、彼らがいかに徳良湖の未来、尾花沢の未来はどのようなものかを語り合う。(12月2日 レストラン徳良湖にて)

尾花沢の印象
(玉虫) まずは皆さんが尾花沢についてどのような印象を持っているか、またそれがドツキ市の開催・出店に繋がる部分があれば併せて伺いたいと思います。**(横澤)** Uターンで帰ってくる前に尾花沢を離れている期間もあったので、尾花沢に住んでいる年数は10年くらいですが、自然も豊かだしいいところだなと思っています。尾花沢では若い人をあまり見ないので、若い人がもっと気軽に集えるような場所づくりがしたいと考えています。ツル細工などの伝統技術をそついった場で伝承・継承していくことができれば、高齢者と若者世代の交流にも繋がるのではないかと思います。**(折原)** 私モUターンで戻ってきて、食べ物のおいしさや人の温かさがいい部分だと思っていますが、顔を知らない心を開いてくれない部分もあると思うんです。そついう保守的な部分は、せつかくいものがあるの

(玉虫) 新春対談の司会を務めます、尾山形新聞社の玉虫です。よろしくお願ひします。本日はドツキ市に関わる皆さんにお集まりいただきありがとうございました。まずは自己紹介をお願いします。**(横澤)** ドツキ市実行委員長の横澤孝博です。矢越で神主をしながらツル細工や藍染めなどを手掛けています。3年前に山形からUターンで帰って来ましたが、一回出て帰ってくると尾花沢はいいところだなんて魅力を感じています。**(折原)** ドツキ市実行委員長の副



ドツキ市実行委員会
副委員長
折原麻紀

鶴巻田在住。会社員をしながらドツキ市副実行委員長を務める。趣味は好みのラーメン屋を探ること。



ドツキ市実行委員会
委員長
横澤孝博

矢越在住。神主を務める傍ら、ツル細工や藍染めなど伝統技術の継承にも力を入れている。山歩きが趣味。

委員長の折原麻紀です。鶴巻田出身の鶴巻田在住で、現在は会社員をしています。私も7年前にUターンで戻ってきました。戻ってきて改めてやっぱりおばねっていいな。一生出る気はございません。**(久保田)** 久保田文です。私はドツキ市実行委員の事務局長をしています。地域おこし協力隊として1年前に引越してきました。副委員長の折原さんと仙台で知り合って、気づいたら尾花沢に住んでいましたが、快適に暮らしています。



会場はレストラン徳良湖。湖を眺めながら話に花が咲く。